

要 旨

試 験 委 託 者 : 環境省

表 題 : 1-クロロオクタンのヒメダカ (*Oryzias latipes*) に対する
初期生活段階毒性試験

試 験 番 号 : A 0 1 0 4 7 6

試 験 方 法 :

- 1) 適用ガイドライン: OECD 化学品テストガイドライン No. 210「魚類の初期生活段階毒性試験」(1992年)
- 2) 暴 露 方 式 : 流水式, 水面をテフロンシートで被覆 (被験物質の揮発防止)
- 3) 供 試 生 物 : ヒメダカ (*Oryzias latipes*)
- 4) 暴 露 期 間 : 40日間 (対照区の孵化率が70%以上になった日の30日後まで)
- 5) 試 験 濃 度 : 対照区, 助剤対照区,
(設定値) 0.015, 0.038, 0.095, 0.24, 0.60 mg/L
公比; 2.5
助剤濃度一定; ジメチルホルムアミド; 約0.1 mL/L
HCO-60; 1.2 mg/L
- 6) 試験液供給量 : 約46 L/容器/日, 試験容器内水量; 約2.5 L
(換水率; 約18回/日)
- 7) 連 数 : 3容器/試験区
- 8) 供 試 生 物 数 : 60個体/試験区 (20個体/容器)
- 9) 試 験 温 度 : 卵・胚期; 24±1 °C
仔魚・稚魚期; 23±2 °C
- 10) 溶存酸素濃度 : 飽和濃度の60%以上 (エアレーションなし)
- 11) pH : 試験液のpH調整なし
- 12) 照 明 : 室内光, 16時間明 (1000 lux以下) / 8時間暗
- 13) 給 餌 : 仔魚・稚魚期に飽食量給餌
- 14) 分 析 法 : ガスクロマトグラフィー (GC)

試 験 結 果 :

1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果、測定値の設定値に対する割合は、暴露期間を通じて 50～75%と、 $\pm 20\%$ を超える値があったため、結果の算出には測定値の算術平均値を用いた。このように設定値より低い値で被験物質濃度が推移したのは、被験物質の揮散性によるものと推測される（被験物質の水溶解度：19 mg/L，沸点：182 ℃）。しかしながら、各試験液の被験物質濃度はいずれも平均測定値の $\pm 20\%$ 以内に維持された。

2) 最小作用濃度 (LOEC) : 0.161 mg/L (設定値：0.24 mg/L)

3) 最大無作用濃度 (NOEC) : 0.0567 mg/L (設定値：0.095 mg/L)